

11月に入りましたね！公開研まで走り抜けた日々でしたね。がんばった自分に拍手～！！2学期も残り半分ですね。がんばっていきましょう～♪

さて、今回は不登校について少し触れてみます。教育相談担当者研の話をもとに、私たちに求められる対応や支援について考えていきたいと思います。

四日市市の現状を結論から言いますと、H30年の不登校児童生徒数は、小学校・中学校とも過去2年間から増えました。(図1) この不登校児童生徒数は、高学年から中学生という思春期を迎える時期から徐々に増えていく傾向があるようです。

H30 不登校児童生徒数と発生率	H28	H29	H30
小学校 124人	0.61	0.61	0.77
中学校 306人	3.60	3.35	3.86

※発生率算出方法 不登校児童生徒数/在籍児童生徒数×100 (図1：不登校対策研修会資料より)

四日市市の不登校の3大要因として、

- ① 家庭に係る状況
- ② 学業の不振（中学校で最も高い不登校の要因だそうです）
- ③ いじめを除く友人関係をめぐる問題

が挙げられました。この要因の対応策として、①では、SCやSSW（ソーシャルワーカー）などの学校以外の関係機関との連携の必要性、②では、小学校低学年からの学力定着を図る必要性、③人の関わり方、断り方、気持ちの読み方（表情認知）、意思の表し方、余暇の過ごし方等のトレーニングをする必要性があることを教えていただきました。

②、③に至っては、まさに特別支援教育ともいえる内容で、どの子どもたちにも必要な手立てだと感じました。

「学校復帰した児童生徒を不登校に戻さない」「新規の不登校を予防する」ために、不登校のリスクが高いと考えられる児童生徒の状況を私たちが掴んでおくことはとても重要になります。欠席3日目シートやQ-U調査も児童生徒の状況を掴む大切な情報源となります。何気なく書いている欠席3日目シートですが、これを作成した児童生徒の不登校率は高く、（平成29年度シート作成者の次年度状況は、小学校55%、中学校79%が不登校になったというデータが出ています）侮れませんね。

また、Q-U調査については、9月30日に大熊先生が研修をいただいた中で、Q-Uとはどのようなものなのか、分析の仕方や見方について分かりやすく説明していただきました。ここでは詳しい説明を省きますが、Q-U調査だけでも子どもたちのたくさんの情報を得られることが分かります。自分自身の見取りと自分以外が行った分析（データとして挙がってくるものや他者からの見取りなど）とを照らし合わせ、子どもたちを見ていくことの大切さを私は感じました。

このことから言えるように、四日市市としてもクラスの担任 1 人で抱え込み、解決するのではなく「チームとして」「組織として」対応をしていってほしいということを主張していました。なぜなら、学年・担任が変わってもできることを基本に対応を考え、引き継いでいかなければならないからです。

「学校復帰した児童生徒を不登校に戻さない」「新規の不登校を予防する」ためにも、子どもの変化に気づいたときには、学年はもちろんSCや生指担当者や特別支援Coなどに伝え、組織で見守る体制づくりを意識しながら対応できるといいなと思います。

次は、SCやSSWとの連携についてお知らせしようと思います♪

(文責 樋口)